新しい学問を学んだ人たち

江戸時代には、鎖国をしている中でも、新しい知識を学び、生かそうとした人 たちがいました。 杉田玄白と、伊能忠敬の努力や苦労を見てみましょう。

オランダ語の医学書を翻訳する

『解体新書』は、オランダ語で書かれた医学書『ターヘル・アナトミア』を翻訳したものです。しかし、当時はオランダ語を日本語に訳した辞書もありません。玄白はオランダ語がわからず、仲間の前野良沢がわずかなオランダ語を知っているだけでした。

「鼻」のところに「フルヘッヘンド しているものである」と書いてあ ります。

「フルヘッヘンド」という単語は、 何を意味しているのでしょう? みんなで考えてみましたが、 わかりません。

辞書もないから調べようがありませんね。





長崎でオランダ語の本を買って きましたよ。

これには、「木の枝を切りとった あと、そのあとはフルヘッヘンドをなっている」と注意書きが

あります。

「庭を掃除すれば、そのちりや土が集まってフルヘッヘンドする」とも書いてありませんか。 どういうことでしょう?

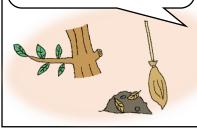


木の枝を切りとったあと、切りとったところは、出っぱって、うずたかくなりますよね。

掃除してちりや土を集めると、これ もまたうずたかくなります。 鼻も顔の真ん中にあってうずたかくなっているものですから、「フルヘッヘンド」は「うずたかい」と翻訳してはどうでしょうか。

たしかにもっともです。 「鼻」は「うずたかくなっ ているものである」と翻訳 したら、ぴったりですね。

ようやく「フルヘッヘンド」の部分が翻訳できて、 よかったです。









↑ ▼ 杉田玄白が思い出を書いた本にある翻訳についてのエピソード

伊能忠敬の測量

伊能忠敬の測量方法は、根気のいるものでした。地形にそって2か所を選んで杭を立て、間の長さを測ります。また、2点間を結んだ線が北の方位に対してどれくらいの角度かを調べました。これをくりかえすことによって、海岸線全体の形を調べたのです。

忠敬は、一定のはばで歩く訓練を していました。一歩が 69cm のはばで 正確に歩くことができたそうです。

